

これからの人生をアップグレードする積極型年金



「変額個人年金保険」

特別勘定の月次運用レポート 2024年2月末現在

- 市場概況
- 特別勘定の運用状況
- 組入投資信託の運用レポート

変額個人年金保険に含まれる手数料などのご留意点について

●変額個人年金保険は一時払保険料をファンドで運用します。ファンドの主要投資対象である投資信託は、国内外の株式・債券等で運用しており、運用実績が保険金額や資産残高・将来の年金額等の増減につながるため、株価や債券価格の下落、為替の変動により、資産残高、解約払戻金額は払込保険料を下回ることがあり、損失が生じるおそれがあります。

●保険関係費用:ご契約の新規成立・維持等や死亡・災害死亡の保障等をするための費用です。運用期間中、資産残高に対して年率2.35%の割合で資産残高から毎日控除されます。ただし、マネーファンドの保険関係費用(上限:年間100日まで)には優遇措置があります。

●運用関係費用:ファンドの運用にかかる費用です。主にファンドが投資する投資信託の信託報酬で、信託財産に対して最大で年率1.65%(税抜1.50%)程度の割合で信託財産から毎日控除されます。運用手法の変更等の理由により将来変更される可能性があります。

●契約管理手数料:毎年の契約応当日の前日の資産残高が200万円未満の場合、毎年の契約管理手数料として年額4,800円が契約応当日に資産残高から控除されます。全部解約時の資産残高が200万円未満の場合、解約の年の契約管理手数料として一律4,800円が解約時に控除されます。

●年金管理費:年金支払の管理にかかる費用です。年金の受取期間中、年金額に対して1%の割合で責任準備金から年金受取時に控除されます。

●解約控除:ご契約日および増額日からその日を含めて7年未満の全部解約、一部解約をした場合にかかります。ご契約日からの経過年数に応じて、解約控除対象額※の7%~1%の割合で解約日の資産残高または一部解約請求額から控除されます。

※解約控除対象額は、全部解約の場合は一時払保険料相当額、一部解約の場合は一部解約請求額と一時払保険料相当額のうちいずれか小さい方の金額となります。なお、過去に一部解約があった場合はその際の解約控除対象額が一時払保険料相当額から差し引かれます。

*この商品にかかる費用の合計額は、「運用期間中の費用(「保険関係費用」「運用関係費用)」と「年金受取期間中の費用(「年金管理費)」」の合計額となります。また、特定のお客さまには「契約管理手数料」や「解約控除」がかかります。

- ・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
- ・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
- ・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

[引受保険会社] オリックス生命保険株式会社

本商品につきましては、新規のご契約のお取り扱いを行っておりません。
ただし、既に本商品をご契約されているお客様につきましては、ご契約後の各種手続のお取り扱いを行っております。

(管)ORI-101

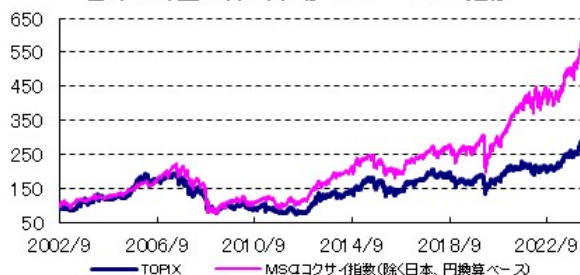
市場概況

代表的な指標の騰落率		1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年
日本株式	日経平均株価	7.94%	16.96%	20.07%	42.71%	35.21%
	TOPIX(東証株価指数)	4.89%	12.67%	14.74%	34.24%	43.51%
日本債券	NOMURA-BPI総合	0.32%	0.01%	▲ 0.23%	▲ 0.72%	▲ 4.22%
外国株式	MSCIコクサイ指数(除く日本、円換算ベース)	4.71%	12.85%	14.32%	34.84%	73.35%
外国債券	FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)	1.24%	3.10%	5.53%	15.39%	17.55%
外国為替	米ドル対円為替レート(仲値)	2.11%	2.45%	3.06%	10.52%	41.81%

日経平均株価(円)の推移



日本と外国の株式市場パフォーマンス推移

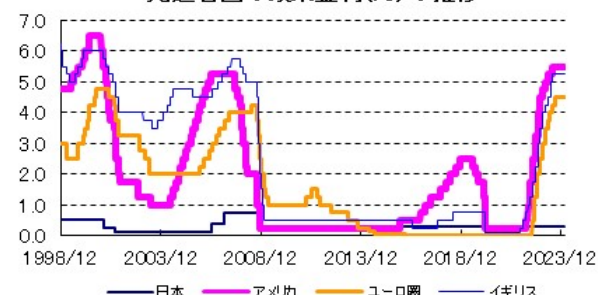


※上記グラフは、2002年9月末を100として指数化しています。

日本の国債利回り(%)の推移



先進各国の政策金利(%)の推移

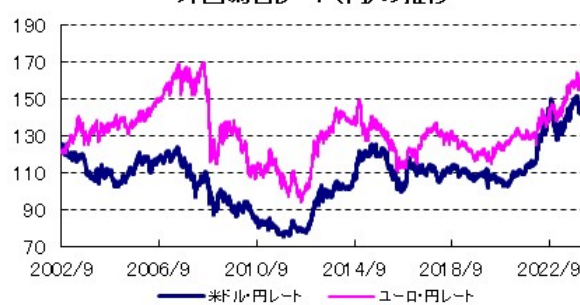


日本と外国の債券市場パフォーマンス推移



※上記グラフは、2002年9月末を100として指数化しています。

外国為替レート(円)の推移



全てのデータの出所はBloomberg、野村総合研究所です。NOMURA-BPIとは、日本国内債券市場で発行されている代表的な公社債の流通動向を的確に表す投資収益指数です。当指数は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社によって計算、公表されている、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社の知的財産です。なお、同社は、当指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。MSCIコクサイ指数とは、MSCI Inc.が所有する株価指数で、世界の主要先進国の株式市場の動きを捉える基準として、広く認知されているものです。FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

※運用状況については、組入投資信託の運用レポートをご覧ください。

- 当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
- 特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
- 各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

特別勘定(ファンド)グループ

特別勘定と投資対象の投資信託

特別勘定	運用資産				投資対象の投資信託	運用会社	資産配分(%)		資産合計 (百万円)
	株式		債券				投資信託	現預金 その他	
	日本	外国	日本	外国					
日本株グロースファンド	●				利益還元成長株オープン(愛称:Jグロース)	日興アセットマネジメント株式会社	97.4%	2.6%	19,210
日本株バリューファンド	●				フィデリティ・日本アドバンテージ・ファンドVA*	フィデリティ投信株式会社	97.0%	3.0%	4,959
日本株インデックスファンド	●				日本株インデックスファンド225	アセットマネジメントOne株式会社	96.9%	3.1%	24,336
日本小型株ファンド	●				フィデリティ・日本小型株・ファンドVA2	フィデリティ投信株式会社	97.7%	2.3%	4,190
グローバルグロースファンド	●	●			Gグロース	日興アセットマネジメント株式会社 【運用再委託会社】 ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルビー	96.4%	3.6%	6,710
グローバル債券ファンド				●	ピムコ グローバル債券ファンド	ピムコ ジャパン リミテッド	97.0%	3.0%	1,460
米ドル短期ファンド				●	ニッコウ・マネー・マーケット・ファンド -USDドル・ポートフォリオ[米ドルMMF]	日興アセットマネジメント ヨーロッパリミテッド	97.0%	3.0%	1,299
GWバランスファンド	●	●		●	GWバランスファンドが投資する投資信託の詳細については、下表をご参照ください。 資産配分の助言に関する会社:日興グローバルラップ株式会社		97.4%	2.6%	12,789
マネーファンド	-	-	-	-	銀行預金	-	0.0%	100.0%	1,690

* 適格機関投資家転売制限付きの投資信託です。

GWバランスファンドが投資する投資信託

特別勘定	運用資産				投資対象	運用会社	資産内訳		資産額 合計 (百万円)
	株式		債券				資産額 (百万円)	配分 (%)	
	日本	外国	日本	外国					
GWバランスファンド	●				利益還元成長株オープン(愛称:Jグロース)	日興アセットマネジメント株式会社	2,934	22.9%	12,789
	●				フィデリティ・日本小型株・ファンドVA2	フィデリティ投信株式会社	1,223	9.6%	
	●	●			Gグロース	日興アセットマネジメント株式会社 【運用再委託会社】 ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルビー	4,364	34.1%	
				●	ピムコ グローバル債券ファンド	ピムコ ジャパン リミテッド	3,939	30.8%	
	-	-	-	-	現預金その他	-	327	2.6%	

- ・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
- ・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
- ・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

特別勘定(ファンド)グループ

投資信託の運用方針

投資対象の投資信託	運用方針
利益還元成長株オープン(愛称:Jグ ロース)	今後の成長性が見込まれ、株主への利益還元が期待できる企業を厳選し投資することで、TOPIX(東証株価指数)を中長期的な観点から上回る投資成果の獲得を目指します。銘柄選定では、直接企業を訪問し、経営の方向性、事業環境、競争力の有無等を見極めます。
フィデリティ・日本アドバンテージ・ ファンドVA*	割安な状態にある企業の株式に投資することによりRUSSELL/ NOMURA Total Market Valueインデックスを上回る投資成果を目指します。「割安な状態にある企業」の選定については、企業の本質的な価値を分析し、その企業価値に対する割安性に注目します。
日本株インデックスファンド225	わが国の株式を主要投資対象とし、原則として、日経平均株価(日経225)採用銘柄の中から200銘柄以上に同指数における個別銘柄の比率と同程度となるように投資を行い、日経平均株価に連動する投資成果を目指します。
フィデリティ・日本小型株・ファンドVA2	主に日本国内の小型株に投資することにより、Russell/Nomura Mid-Small Cap インデックスを上回る投資成果を目指します。個別企業分析により、比較的規模の小さい高成長企業を選定し、利益成長性等と比較して妥当と思われる株価水準で投資を行いません。日本株式の価格変動リスク等があります。
Gグロース	主に日本を含む先進各国の上場株式に投資します。世界的な視点で見ても競争力に優れた成長企業の株式に投資し、中長期的な観点から、世界株式の代表的指数であるMSCI-WORLDインデックス(税引後配当込み、円ヘッジなし・円ベース)を上回る投資成果の獲得を目指します。※1
ピムコ グローバル債券ファンド	主に世界の主要国の債券に分散投資を行い、中長期的な観点から、世界主要各国の債券市場全体(ブルームバーク・グローバル総合(日本円除く)インデックス(円ベース、為替ヘッジなし))を上回る投資成果を目指します。※2
ニッコウ・マネー・マーケット・ファンド -USDル・ポートフォリオ[米ドルMMF]	買付時において、Aa3/AA-またはP-1/A-1以上の高格付米ドル建短期債券、変動利付債、またCP、CD等の短期金融商品に投資することで、元本を維持し、流動性を保ちつつ、好収益を獲得することを目指します。
[GWバランスファンド] 投資信託の組み合わせ 利益還元成長株オープン(愛称:Jグロース) フィデリティ・日本小型株・ファンドVA2 Gグロース ピムコ グローバル債券ファンド	各投資信託への投資を通じて、国内株式・世界株式・世界債券等へ分散投資を行い、積立金の長期的な成長を目指します。運用にあたっては、日興グローバルラップ株式会社より、投資信託の組み合わせ(資産配分)に関する助言を受けます。長期的観点から長期基本資産配分を策定し、これに中期的な市況見通しを加味した推奨資産配分比率に従って4つの各投資信託に分散投資を行うことにより、リスク分散に留意した運用を目指します。※ GWバランスファンドの各投資信託の運用方針については、上記の各投資信託の運用方針をご参照ください。
銀行預金	元本の安全性・流動性を確保するために銀行預金で保有します。

* 適格機関投資家転売制限付きの投資信託です。

※1 2024年1月にベンチマークを変更しましたが、実質的な運用方針に変更はございません。

※2 ピムコ グローバル債券ファンドが投資する外国投資信託証券の組み替えに伴い、2023年12月12日付で運用方針を変更しましたが、実質的な運用内容に変更はございません。

- ・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
- ・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
- ・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

特別勘定 ユニットプライスと収益率の推移

日本株グロースファンド



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	5.82%	11.66%	12.60%	29.77%	31.67%	111.49%

日本株バリューファンド



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	3.33%	8.69%	9.74%	30.71%	50.41%	213.80%

日本株インデックスファンド



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	7.60%	16.02%	19.11%	40.63%	31.31%	163.80%

日本小型株ファンド



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	3.60%	4.83%	8.31%	19.32%	9.51%	89.11%

グローバルグロースファンド



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	7.28%	18.82%	21.36%	39.61%	39.52%	187.51%

グローバル債券ファンド



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	1.07%	3.11%	4.15%	11.93%	11.19%	43.94%

※特別勘定のユニットプライスは当初100で設定されております。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
 ・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
 ・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

特別勘定 ユニットプライスと収益率の推移

米ドル短期ファンド



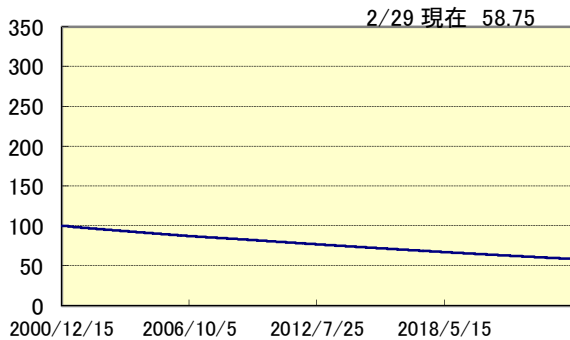
期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	2.35%	2.66%	3.81%	12.04%	37.93%	-5.21%

GWバランスファンド



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	4.64%	10.56%	12.38%	26.05%	25.64%	113.97%

マネーファンド



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	-0.19%	-0.58%	-1.17%	-2.33%	-6.83%	-41.25%

※特別勘定のユニットプライスは当初100で設定されております。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。

・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。

・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

日本株グロースファンド

【特別勘定が投資する投資信託】

利益還元成長株オープン(愛称:Jグロース)

【運用会社】

日興アセットマネジメント株式会社

主要投資対象

日本の上場および店頭株式。主にJグロース マザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

運用方針

今後の成長性が見込まれ、株主への利益還元が期待できる企業を厳選し投資することで、TOPIX(東証株価指数)を中長期的な観点から上回る投資成果の獲得を目指します。銘柄選定では、直接企業を訪問し、経営の方向性、事業環境、競争力の有無等を見極めます。

<運用担当者のコメント>

(データは2024年2月29日現在)

市場環境

2月の国内株式市場は、東証株価指数(TOPIX)が前月末比プラス4.89%の上昇、日経平均株価が同プラス7.94%の上昇となりました。国内企業の業績が概ね堅調なことや、日銀副総裁がマイナス金利政策を解除する場合でも緩和的な金融環境を維持するとの認識を示したこと、日銀による金融緩和の長期化観測を背景に円安/アメリカドル高が進み、輸出企業の好調な業績が期待されたこと、東京証券取引所が企業に資本効率の改善を要請するなか企業による株主還元強化が期待されたこと、米国の生成AI(人工知能)向け大手半導体企業的好決算などから米国株式市場が上昇したことなどから、国内株式市場は上昇しました。

東証33業種分類では、輸送用機器、保険業、石油・石炭製品などの25業種が上昇する一方で、繊維製品、海運業、食料品などの8業種が下落しました。

運用概況

当ファンドでは、独自の製品やビジネスノウハウによって持続的な成長を遂げることができる企業に引き続き注目するとともに、景況感の改善が続いて企業業績も底堅い、良好な日本株の投資環境を考慮して運用を行いました。今月は、防衛関連予算増額による寄与が見込める機械株や、来期業績の回復が期待できる半導体製造装置株のほか、株価が出遅れているガラス株や医療施設型ホスピスを展開する企業などの買い増しを行いました。一方、株価が上昇した商社株や鉄道株、小売株などは一部を売却して利益を確定しました。

当ファンドの基準価額は、半導体製造装置株やスポーツシューズ株、大規模な自社株買いを発表した総合商社株などの株価上昇がけん引してTOPIXの上昇率を上回りました。

今後の見通し

米国ではインフレ抑制のための利上げ局面がほぼ終了した可能性が高く、利下げへの期待と好調な企業決算から株式市場は上昇しました。年明け以降は日本でも、円安の進行や企業業績の改善期待を受けて株価の上昇が続き、日経平均株価は1989年の最高値を更新しました。

今後の株式市場を考えると、物価上昇を上回る賃上げが実施され、実質賃金がプラスに転じることが重要と考えています。持続的な賃上げによって製品価格への転嫁メカニズムが回復すれば、物価は緩やかな上昇が続き、日本はデフレを完全に克服して正常な経済に戻ると期待しています。企業業績は、経済の正常化による売上の増加や円安の定着、自動車生産の好調持続や半導体市場の回復、原材料価格の落ち着きによる利益率改善などから、今後も底堅く推移するとみています。金融政策では、日銀がそう遠くない時期にマイナス金利政策を解除するとみられますが、その後も粘り強く金融緩和策を続ける方針を示しています。日本の堅調な景気・企業業績や安定した金融政策は、これからも投資先として評価されやすいと思われれます。加えて、企業が資本コストや株価を意識した経営を実践するために、事業構造改革や成長投資に加え、増配や自社株買いといった株主還元取り組み強化が継続されることで、株価が下支えされるとみています。

当ファンドでは、経済の構造変化に対応して持続的な利益成長を実現できる質の高い企業を中心に据え、各企業の業績や株主還元姿勢を見極めた投資銘柄の選別によって良好なパフォーマンスの獲得をめざしてまいります。

運用方針等は作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

<資産構成比>

株式	97.7%
うち先物	0.0%
CB	0.0%
公社債	0.0%
現金その他	2.3%
外貨建て資産	0.0%

<国内株式組入上位5業種>

	業種	比率
1	電気機器	19.8%
2	機械	8.9%
3	輸送用機器	8.7%
4	情報・通信業	8.4%
5	卸売業	6.5%

「国内株式組入上位5業種」「国内株式組入上位10銘柄」はマザーファンドの状況です。「資産構成比」「国内株式組入上位10銘柄」の比率は対純資産総額、「国内株式組入上位5業種」の比率は対組入株式時価総額です。

このレポートのグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

[純資産総額] 280.41億円 [基準価額] 30,808円
[決算日] 原則6月25日 [信託期間] 無期限
[設定日] 1991年6月26日

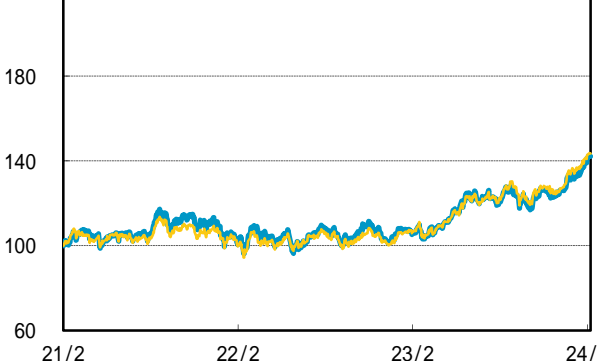
<分配金込み基準価額のパフォーマンス>

	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
当ファンド	12.64%	14.27%	33.77%	42.16%	261.31%
TOPIX	12.67%	14.74%	34.24%	43.51%	44.43%

基準価額の騰落率および推移グラフは分配金(税引前)を再投資し計算しています。

<分配金込み基準価額の指数化グラフ>

(2021年2月26日を100として指数化)



TOPIX(東証株価指数)に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利は、株式会社J P X総研または株式会社J P X総研の関連会社に帰属します。

基準価額は、信託報酬控除後の値です。当ファンドの信託報酬は、運用実績に応じて変動する「実績報酬制」を採用しております。

<国内株式組入上位10銘柄> (銘柄数 118銘柄)

	銘柄	業種	比率
1	ソニーグループ	電気機器	3.56%
2	トヨタ自動車	輸送用機器	3.32%
3	東京エレクトロン	電気機器	2.99%
4	三菱商事	卸売業	2.91%
5	信越化学工業	化学	2.86%
6	キーエンス	電気機器	2.86%
7	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	2.52%
8	日立製作所	電気機器	2.27%
9	HOYA	精密機器	2.22%
10	中外製薬	医薬品	2.02%

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。

・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。

・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

日本株バリューファンド

【特別勘定が投資する投資信託】

フィデリティ・日本アドバンテージ・ファンドVA(適格機関投資家転売制限付き)

【運用会社】

フィデリティ投資株式会社

主要投資対象

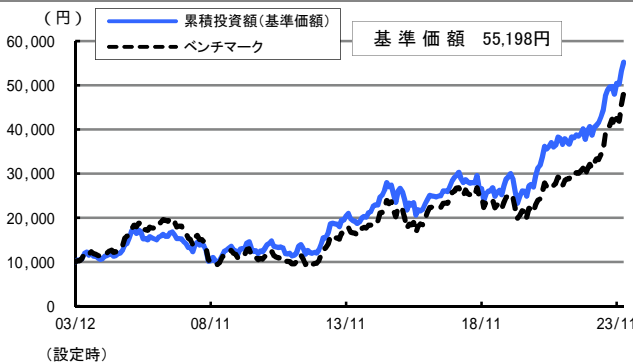
日本の上場株式。主にフィデリティ・日本バリュー・マザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

運用方針

割安な状態にある企業の株式に投資することによりRUSSELL/ NOMURA Total Market Valueインデックスを上回る投資成果を目指します。「割安な状態にある企業」の選定については、企業の本質的な価値を分析し、その企業価値に対する割安性に注目します。

設定来の運用実績

(2024年2月29日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。ベンチマークはファンド設定前日目を10,000円として計算しています。
※基準価額は運用管理費用控除後のものです。
※当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

累積リターン

(2024年2月29日現在)

	直近1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	3.59%	9.52%	11.27%	34.89%	63.54%	451.98%
ベンチマーク	5.73%	13.70%	17.84%	44.73%	86.63%	382.55%

※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。
※ベンチマーク: Russell/Nomura Total Market Value インデックス(配当金込)*
*Russell/Nomura Total Market Valueインデックス(配当金込)とは、Russell/Nomura 日本株インデックスのバリュースタイル指数です。Russell/Nomura Total Market Valueインデックスの低PBR銘柄で構成されており、Russell/Nomura Large Cap Value および Russell/Nomura Small Cap Value インデックスを含みます。Russell/Nomura Total Market Value インデックスの知的財産権およびその他一切の権利は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社およびFrank Russell Companyに帰属します。なお、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社およびFrank Russell Companyは、Russell/Nomura Total Market Value インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当ファンドの設定の可否、運用成果等並びに当ファンド及びRussell/Nomura Total Market Value インデックスに関連して行われる当社のサービス提供等の行為に関して一切責任を負いません。

過去5期分の収益分配金(1万口当たり/税込)

第16期(2019.05.07)	0円
第17期(2020.04.30)	0円
第18期(2021.04.30)	0円
第19期(2022.05.02)	0円
第20期(2023.05.01)	0円

コメント

(2024年2月29日現在)

当月の東京株式市場は、日米企業による好調な決算発表などが手掛かりとなって、半導体関連株をはじめとする主力株が力強く上昇し、日経平均株価は史上最高値を更新しました。
米国で早期の利下げ期待が後退したことなどから一進一退の推移で始まりましたが、主要企業による好決算や株主還元策の発表が続いたこと、また日銀副総裁の発言を受けてマイナス金利が解除された後も緩和的な金融環境が続くとの見方が広がり、それに伴って円安が進んだことなどを背景に、株価は騰勢を強めていきました。大手テクノロジー株の好決算を材料に上値を追う米国株と共に、日本株も半導体関連株をはじめとする主力株を牽引役として上昇する展開が続き、月半ばには日経平均株価が38,000円台を回復、その後は相場の過熱感が意識されて伸び悩んだものの、人工知能(AI)向け米半導体大手から好決算が発表されると急伸し、22日に日経平均株価は1989年12月に付けた過去最高値を突破して初めて39,000円台に到達しました。その後の株価推移は緩やかとなりましたが、日経平均株価は39,000円台を維持したまま月を終えました。
月間の騰落率は、TOPIX(配当込)が+4.93%、日経平均株価は+7.94%でした。
※上記コメントは、資料作成時点におけるもので将来の市場環境等の変動等を保証するものではありません。

純資産総額

49.5 億円

(2024年2月29日現在)

組入上位10銘柄(マザーファンド・ベース)

(2024年1月31日現在)

	銘柄	業種	比率
1	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	5.1%
2	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	4.4%
3	伊藤忠商事	卸売業	4.1%
4	ソニーグループ	電気機器	3.3%
5	住友林業	建設業	3.1%
6	ススキ	輸送用機器	2.9%
7	関西電力	電気・ガス業	2.9%
8	日立製作所	電気機器	2.8%
9	信越化学工業	化学	2.8%
10	東京エレクトロン	電気機器	2.6%

(組入銘柄数: 73)

上位10銘柄合計 34.1%
(対純資産総額比率)

ポートフォリオの状況(マザーファンド・ベース)

(2024年1月31日現在)

資産別組入状況

株式	98.5%
新株予約権証券(ワラント)	-
投資信託・投資証券	-
現金・その他	1.5%

市場別組入状況

東証プライム	96.3%
東証スタンダード	2.2%
東証グロース	-
その他市場	-

組入上位5業種

電気機器	20.2%
銀行業	9.5%
建設業	8.1%
輸送用機器	7.4%
機械	6.4%

(対純資産総額比率)

* 各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。
* 業種は東証33業種に準じて表示しています。
* 未払金等の発生により「現金・その他」の数値がマイナスになることがあります。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

日本株インデックスファンド

【特別勘定が投資する投資信託】

日本株インデックスファンド225

【運用会社】

アセットマネジメントOne株式会社

主要投資対象

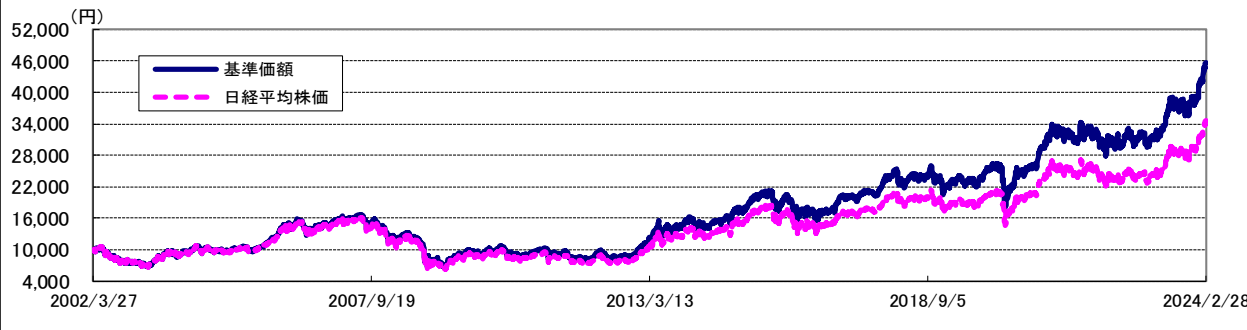
主に日本の上場株式。

運用方針

わが国の株式を主要投資対象とし、原則として、日経平均株価(日経225)採用銘柄の中から200銘柄以上に同指数における個別銘柄の比率と同程度となるように投資を行い、日経平均株価に連動する投資成果を目指します。

2024年2月末までの運用経過

基準価額の推移(税引前分配金再投資)



- ・分配金再投資後基準価額＝前日分配金再投資後基準価額×(当日基準価額÷前日基準価額)
(※決算日の当日基準価額は税引前分配金込み)
- ・基準価額は税引前の分配金を再投資したものと計算し、指数化していますので実際の基準価額と異なることがあります。
- ・日経平均株価は設定日の終値を10,000として指数化。
- ・基準価額は信託報酬控除後です。

基準価額等情報

基準価額	45,684円
純資産総額	24,976百万円
設定日	2002年3月27日
決算日	2月10日
組入銘柄数	225

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	5年	設定来
当ファンド	7.99%	17.13%	21.01%	45.16%	41.88%	98.54%	356.84%
日経平均株価	7.94%	16.96%	20.07%	42.71%	35.21%	83.15%	245.88%
差	0.05%	0.17%	0.94%	2.46%	6.66%	15.39%	110.96%

※当ファンド騰落率は税引前の分配金を再投資したものと算出しておりますので実際の投資家利回りとは異なる場合があります。

分配金情報(税引前)

※直近3年分

第20期(2022.02.10)	0円
第21期(2023.02.10)	0円
第22期(2024.02.13)	0円
設定来累計分配金	0円

※分配対象額が少額の場合には、分配を行わない場合があります。
※分配金は1万円当たり

組入上位5業種

No	業種名	組入比率(%)
1	電気機器	26.90
2	小売業	12.26
3	情報・通信業	9.70
4	化学	6.26
5	医薬品	5.50

※組入比率は純資産総額比

組入上位10銘柄

No	銘柄	業種	市場	組入比率(%)
1	ファーストリテイリング	小売業	東証プライム	10.39
2	東京エレクトロン	電気機器	東証プライム	8.86
3	アドバンテスト	電気機器	東証プライム	4.43
4	ソフトバンクグループ	情報・通信業	東証プライム	4.22
5	信越化学工業	化学	東証プライム	2.56
6	KDDI	情報・通信業	東証プライム	2.19
7	TDK	電気機器	東証プライム	1.87
8	テルモ	精密機器	東証プライム	1.87
9	ファナック	電気機器	東証プライム	1.75
10	ダイキン工業	機械	東証プライム	1.70

※組入比率は純資産総額比

株式市場概況

2月の日経平均株価は上昇しました。上旬は、内外企業の決算が好感されたことに加え、日銀の内田副総裁がマイナス金利解除後の緩和的な金融環境継続を示唆したこと、上昇しました。中旬は、米CPI(消費者物価指数)上振れに伴う米国株安から一時下落しましたが、円安などから上昇しました。下旬は、米半導体大手の決算が好感されるとともに、国内企業の資本効率改善に向けた取り組み進展への期待もあって、一段と上昇しました。

- ・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
- ・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
- ・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

日本小型株ファンド

【特別勘定が投資する投資信託】

フィデリティ・日本小型株・ファンドVA2

【運用会社】

フィデリティ投資株式会社

主要投資対象

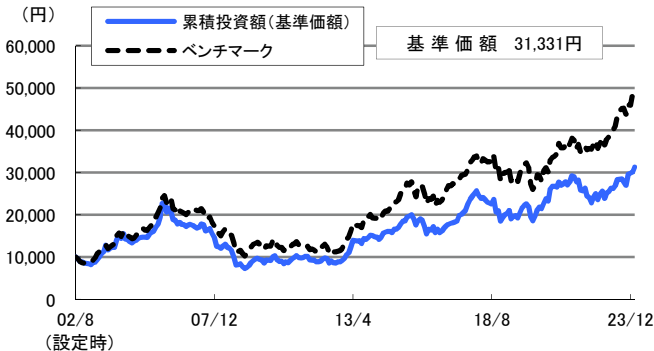
日本の上場株式の小型株。主にフィデリティ・日本小型株・マザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

運用方針

主に日本国内の小型株に投資することにより、Russell/Nomura Mid-Small Cap インデックスを上回る投資成果を目指します。個別企業分析により、比較的規模の小さい高成長企業を選定し、利益成長性等と比較して妥当と思われる株価水準で投資を行いません。

設定来の運用実績

(2024年2月29日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。ベンチマークはファンド設定日前日を10,000円として計算しています。(設定から2003年8月末までは東証第二部株価指数(配当金込)、2003年9月から2009年2月末まではRussell/Nomura Small Capインデックス(配当金込)を連続させて指数化しております。)※基準価額は運用管理費用控除後のものです。※当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

累積リターン

(2024年2月29日現在)

	直近1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	3.92%	5.61%	9.84%	22.80%	18.04%	213.31%
ベンチマーク	2.62%	8.76%	10.66%	29.99%	44.89%	399.93%

※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。
※ベンチマーク: Russell/Nomura Mid-Small Capインデックス*(配当金込)
(但し、設定から2003年8月末までは東証第二部株価指数(配当金込)、2003年9月から2009年2月末まではRussell/Nomura Small Capインデックス(配当金込)でした。)
※累積リターンは、2003年8月末までの東証第二部株価指数(配当金込)、2009年2月末までのRussell/Nomura Small Capインデックス(配当金込)、及び現在のベンチマークの騰落率を連続させて計算しております。
*Russell/Nomura Mid-Small Capインデックスとは、Russell/Nomura日本株インデックスの中小型株指数です。Russell/Nomura Total Marketインデックスの時価総額中位35%と時価総額下位15%をカバーし、Russell/Nomura Mid-Small Cap GrowthインデックスおよびRussell/Nomura Mid-Small Cap Valueインデックスを含みます。Russell/Nomura Mid-Small Cap インデックスの知的財産権およびその他一切の権利は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社およびFrank Russell Companyに帰属します。なお、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社およびFrank Russell Companyは、Russell/Nomura Mid-Small Cap インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当ファンドの設定の可否、運用成果等並びに当ファンド及びRussell/Nomura Mid-Small Cap インデックスに関連して行われる当社のサービス提供等の行為に関して一切責任を負いません。

過去5期分の収益分配金(1万口当たり/税込)

第18期(2019.12.02)	0円
第19期(2020.11.30)	0円
第20期(2021.11.30)	0円
第21期(2022.11.30)	0円
第22期(2023.11.30)	0円

純資産総額

54.4 億円

(2024年2月29日現在)

コメント

(2024年2月29日現在)

当月の東京株式市場は、日米企業による好調な決算発表などが手掛かりとなり、半導体関連株をはじめとする主力株が力強く上昇し、日経平均株価は史上最高値を更新しました。

米国で早期の利下げ期待が後退したことなどから一進一退の推移で始まりましたが、主要企業による好決算や株主還元策の発表が続いたこと、また日銀副総裁の発言を受けてマイナス金利が解除された後も緩和的な金融環境が続くとの見方が広がり、それに伴って円安が進んだことなどを背景に、株価は騰勢を強めていきました。大手テクノロジー株の好決算を材料に上値を迫る米国株と共に、日本株も半導体関連株をはじめとする主力株を牽引役として上昇する展開が続く、月半ばには日経平均株価が38,000円台を回復、その後は相場の過熱感が意識されて伸び悩んだものの、人工知能(AI)向け半導体大手から好決算が発表されると急伸し、22日に日経平均株価は1989年12月に付けた過去最高値を突破して初めて39,000円台に到達しました。その後の株価推移は緩やかとなりましたが、日経平均株価は39,000円台を維持したまま月を終えました。

月間の騰落率は、TOPIX(配当込)が+4.93%、日経平均株価は+7.94%でした。Russell/Nomura Mid-Small Capインデックス(配当込)が+2.62%、東証グロス市場250指数は+8.48%となり、新興市場は大きく反発しました。

※上記コメントは、資料作成時点におけるもので将来の市場環境等の変動等を保証するものではありません。

組入上位10銘柄(マザーファンド・ベース)

(2024年1月31日現在)

	銘柄	業種	比率
1	リゾートトラスト	サービス業	3.3%
2	マニー	精密機器	3.0%
3	大阪ソーダ	化学	3.0%
4	MARUWA	ガラス・土石製品	2.5%
5	ロート製薬	医薬品	2.3%
6	コンコルディア・フィナンシャルグループ	銀行業	2.2%
7	東急不動産ホールディングス	不動産業	2.1%
8	SWCC	非鉄金属	2.1%
9	宝ホールディングス	食料品	2.0%
10	パジマ	小売業	1.9%

(組入銘柄数: 83)

上位10銘柄合計 24.5%

(対純資産総額比率)

ポートフォリオの状況(マザーファンド・ベース)

(2024年1月31日現在)

資産別組入状況

株式	99.5%
新株予約権証券(ワラント)	-
投資信託・投資証券	-
現金・その他	0.5%

市場別組入状況

東証プライム	86.9%
東証スタンダード	7.5%
東証グロス	5.0%
その他市場	-

組入上位5業種

化学	12.2%
サービス業	10.8%
小売業	8.0%
機械	7.5%
情報・通信業	6.4%

(対純資産総額比率)

*各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

*業種は東証33業種に準じて表示しています。

*未払金等の発生により「現金・その他」の数値がマイナスになることがあります。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

グローバルグロースファンド

【特別勘定が投資する投資信託】

Gグロース

【運用会社】

日興アセットマネジメント株式会社

【運用再委託会社】

ウエルントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー

主要投資対象

日本を含む先進各国の証券取引所上場株式。主にGグロース/海外株式マザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

運用方針

主に日本を含む先進各国の上場株式に投資します。世界的な視点で見て競争力に優れた成長企業の株式に投資し、中長期的な観点から、世界株式の代表的指数であるMSCI-WORLDインデックス(税引後配当込み、円ヘッジなし・円ベース)を上回る投資成果の獲得を目指します。

(データは2024年2月29日現在)

[純資産総額] 121.63億円

[決算日] 原則3月25日

[設定日] 2001年4月20日

[基準価額] 48,561円

[信託期間] 無期限

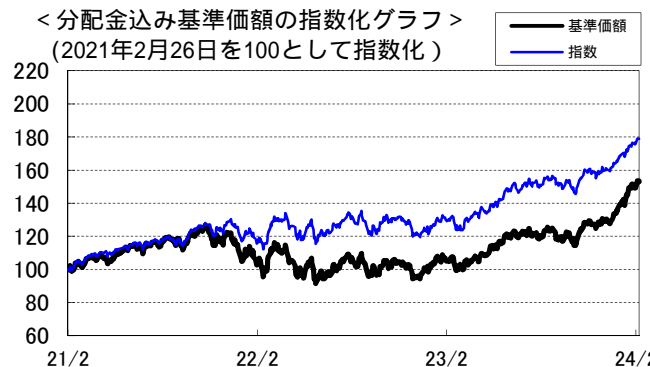
[為替ヘッジ率] 0.0%

<分配金込み基準価額のパフォーマンス>

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
ファンド	7.93%	20.40%	24.00%	45.17%	53.04%	418.79%
指数	4.94%	13.25%	15.19%	37.13%	78.85%	460.52%

基準価額のパフォーマンスは、当ファンドに分配実績があった場合に、当該分配金(税引前)を再投資したものと計算した理論上のものである点にご留意下さい。

<分配金込み基準価額の指数化グラフ> (2021年2月26日を100として指数化)



基準価額は信託報酬控除後の値です。

基準価額は当ファンドに過去3年間、分配実績があった場合に、当該分配金(税引前)を再投資したものと計算した理論上のものである点にご留意下さい。

「指数」は、MSCI-WORLDインデックス(税引後配当込み、円ヘッジなし・円ベース)です。MSCI-WORLDインデックス(税引後配当込み、円ヘッジなし・円ベース)に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

2024年1月26日に、当ファンドのベンチマークを「MSCI-WORLDインデックス(円ベース)」から「MSCI-WORLDインデックス(税引後配当込み、円ヘッジなし・円ベース)」に変更しました。

<株式組入上位10銘柄> (銘柄数 57銘柄)

	銘柄	通貨	業種	比率
1	AMAZON.COM INC	アメリカドル	一般消費財・サービス流通	6.0%
2	NVIDIA CORP	アメリカドル	半導体・半導体製造装置	5.5%
3	MICROSOFT CORP	アメリカドル	ソフトウェア・サービス	5.2%
4	ALPHABET INC-CL C	アメリカドル	メディア・娯楽	4.1%
5	META PLATFORMS INC-CLASS A	アメリカドル	メディア・娯楽	3.9%
6	ELI LILLY & CO	アメリカドル	医薬品・バイオテクノロジー	3.2%
7	MASTERCARD INC - A	アメリカドル	金融サービス	3.1%
8	UBER TECHNOLOGIES INC	アメリカドル	運輸	3.0%
9	ADVANCED MICRO DEVICES	アメリカドル	半導体・半導体製造装置	2.7%
10	AIRBUS GROUP SE	ユーロ	資本財	1.9%

「株式組入上位5ヵ国」「株式組入上位10銘柄」の比率は、マザーファンドの状況で、対純資産総額比です。

「資産構成比」はマザーファンドの投資状況を反映した実質の組入比率です。

このレポートでは基準価額を1万円当たりで表示しています。

このレポートのグラフやデータ等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

当レポート中の各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、それを用いて計算すると誤差が生じることがあります。

<資産構成比>

国内株式(先物含む)	3.6%
外国株式(先物含む)	91.1%
C B	0.0%
公社債	0.0%
現金その他	5.3%

<株式組入上位5ヵ国>

	国名	比率
1	アメリカ	66.8%
2	オランダ	7.0%
3	フランス	4.6%
4	日本	3.6%
5	アイルランド	3.1%

- ・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
- ・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
- ・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

グローバル債券ファンド

【特別勘定が投資する投資信託】

ビムコ グローバル債券ファンド

【運用会社】

ビムコジャパンリミテッド

主要投資対象

日本を除く主要先進国の各種公社債。

運用方針

主に米国や、米国以外の世界主要国の債券に分散投資を行い、中長期的な観点から、世界主要各国の債券市場全体(ブルームバーグ・グローバル総合(日本円除く)インデックス(円ベース、為替ヘッジなし))を上回る投資成果を目指します。

【追加型証券投資信託/ファンドオブファンズ】

【基準価額】 24,011円

【設定日】

2003年4月30日

【決算日】

毎年4月25日

ファンドの騰落率は報酬控除後、1年を超える期間は年率換算してあります。

基準価額の推移



	ファンド	ベンチマーク*	超過収益
1ヶ月	1.28%	1.23%	0.05%
3ヶ月	3.80%	3.45%	0.34%
6ヶ月	5.50%	6.17%	-0.67%
1年	15.09%	15.95%	-0.86%
2年	8.68%	9.27%	-0.59%
設定来	4.29%	4.22%	0.08%

*ブルームバーグ・グローバル総合(日本円除く)インデックス(円ベース、為替ヘッジなし)
(2021年8月24日付で、ブルームバーグ・パークレイス・グローバル総合(日本円除く)インデックス(円ベース、為替ヘッジなし)より名称が変更されております。)

分配実績

	第16期	第17期	第18期	第19期	第20期	累計
19/4/25	0	0	0	0	0	-
20/4/27	0	0	0	0	0	0
21/4/26	0	0	0	0	0	0
22/4/26	0	0	0	0	0	0
23/4/25	0	0	0	0	0	0

ファンド特性

【ファンドの一般的特性】

平均クーポン	3.44%
平均最終利回り	5.02%
平均デュレーション(年)	5.53
平均償還期間(年)	8.00
平均格付け*	AA
債券組入比率	84.43%

*平均格付けとは、基準日時点で投資信託財産が保有している有価証券に係る信用格付を加重平均したものであり、当該投資信託受益証券に係る信用格付ではありません。

【種類別配分】

セクター名	組入比率
国債、E-デット債	27.4%
モーゲージ、アセットバック債	28.2%
社債	23.6%
エマージング債	5.3%
キャッシュ等*	15.6%
合計	100.0%

*「キャッシュ等」にはCP等も含まれます。

【通貨別配分】

国名	組入比率
米ドル	52.6%
ユーロ	24.0%
中国元	8.9%
英ポンド	4.5%
カナダドル	1.7%
オーストラリア	1.5%
その他	6.8%
合計	100.0%

【現物債券上位組入銘柄】

	銘柄名	クーポン	償還日	投資比率
1	FNMA TBA 5.5% MAR 30YR	5.50%	2054/3/13	5.70%
2	FNMA TBA 4.5% APR 30YR	4.50%	2054/4/11	5.62%
3	FNMA TBA 4.0% APR 30YR	4.00%	2054/4/11	3.58%
4	FNMA PASS THRU 30YR #SD8368	6.00%	2053/10/1	3.33%
5	REALKREDIT DANMARK REG*	5.00%	2053/10/1	2.66%

運用コメント

◀市場コメント▶

米国債券相場は、月初、1月末に発表された米地銀の赤字決算を背景に金融不安が再燃したことから上昇して始まったものの、1月の米雇用統計が市場予想を大幅に上回ると下落に転じました。その後も、1月の米CPI(消費者物価指数)が市場予想を上回ったことや、1月のFOMC(米連邦公開市場委員会)議事要旨においてFRB(米連邦準備制度理事会)の早期利下げに対する慎重姿勢が改めて確認されたことなどが下落要因となり、月を通じてみると米国債券相場は下落しました。(2年債利回りは前月比0.41%上昇、10年債利回りは前月比0.34%上昇しました。)

欧州債券相場は、月前半、市場予想を上回った1月のユーロ圏コアインフレ率などを背景にECB(欧州中央銀行)高官が早期利下げに対して慎重な見方を示したことから下落しました。月後半にかけても、2月のユーロ圏総合PMI(購買担当者景気指数)の改善を受けて域内の景況感が持ち直しているとの見方が広がるなか、上値の重い展開が続きました。月を通じてみると欧州債券相場は下落しました。(2年債利回りは前月比0.47%上昇、10年債利回りは前月比0.25%上昇しました。)

英国債券相場は、月前半、2023年9-11月の英失業率の下方修正や1月の英雇用統計における賃金上昇率の上振れなど、雇用環境の改善を背景に下落しました。その後も、1月の英小売売上高が約3年ぶりの大幅な伸びを記録したほか、2月の英総合PMIも堅調な内容となったことを受け、早期利下げ観測が後退し、一段と下落しました。月を通じてみると英国債券相場は下落しました。(2年債利回りは前月比0.04%上昇、10年債利回りは前月比0.33%上昇しました。)

日本債券相場は、根強い日銀の政策修正観測や米国の金利上昇などが重しとなった一方、日経平均株価が過去最高値を更新する中で機関投資家によるリバランスに伴い株売り・債券買いが増えるとの思惑などが下支えとなり、月を通じてみると上昇しました。(2年債利回りは前月比0.10%上昇、10年債利回りは前月比0.02%低下しました。)

◀パフォーマンス▶

先月のパフォーマンスはプラス1.28%となりベンチマークを0.05%上回りました。米国の金利リスクを少なめとしたことがプラスに寄与しました。

市況データ出所:ブルームバーグ

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。

・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。

・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。

したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

米ドル短期ファンド

【特別勘定が投資する投資信託】

ニコウ・マネー・マーケット・ファンド -USDル・ポートフォリオ[米ドルMMF]

【運用会社】

日興アセットマネジメント ヨーロッパリミテッド

主要投資対象

米ドル建ての短期債券および証書。

運用方針

Aa3/AA-格もしくはP-1/A-1格以上の高格付米ドル建短期債券、変動利付債、またCP、CD等の短期金融商品に投資することで、元本を維持し流動性を保ちながら、市場金利に沿った安定的な収益率を目指します。

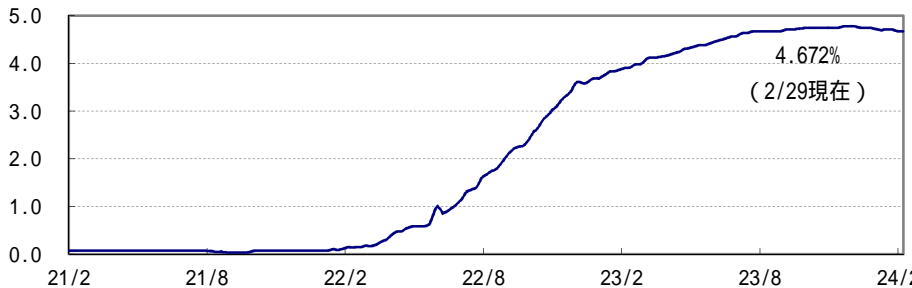
(データは2024年2月29日現在)

[純資産総額]	26.00 億米ドル (約 3,917 億円)	[7日間平均年換算利回り(税引前)]	1]	4.672%
[決算日]	毎年12月31日	[加重平均残存期間]		36日
[設定日]	1992年1月17日	[分配方法]		毎日実績分配
[純資産価格]	2] 100米ドル	[当月再投資額(税引前)]	2]	0.3728米ドル

1: 管理報酬等の控除後の値です。

2: 1万口当たりの純資産価格、再投資額になります。

< 7日間平均年換算利回り(税引前) 1の推移(%) >



上記はあくまでも過去の実績であり、将来を約束するものではありません。

< 組入上位10銘柄 >

	銘柄	業種	償還日	格付	比率 (%)
1	LANDWIRTSCHAFT RENTENBK 0%	政府機関	2024/5/14	P-1	7.6
2	CAISSE DES DEPOTS ET CON 0%	政府機関	2024/4/17	P-1	7.6
3	NEDERLANDSE WATERSCHAPS 0%	政府機関	2024/4/9	P-1	7.6
4	MUNICIPALITY FINANCE PLC 0%	政府機関	2024/5/21	P-1	5.7
5	LANDESKREDBK BADEN-WURTT 0%	政府機関	2024/4/30	P-1	5.7
6	CAISSE DES DEPOTS ET CON 0%	政府機関	2024/4/19	P-1	5.7
7	MUNICIPALITY FINANCE PLC 0%	政府機関	2024/3/4	P-1	5.7
8	CAISSE DES DEPOTS ET CON 0%	政府機関	2024/3/18	P-1	5.3
9	AGENCE CENTRL DES ORGNMS 0%	政府機関	2024/3/12	P-1	4.8
10	MUNICIPALITY FINANCE PLC 0%	政府機関	2024/3/7	P-1	4.8

変動利付債は、「次回利払日」を償還日としています。

「格付分布」及び「組入上位10銘柄」の格付の記号は、ムーディーズ社の表記方法で記載しています。

したがって、S & P社のA-1及びA-1+はP-1、AAAはAaa、AAはAaにそれぞれ含まれています。なお、格付は、ムーディーズ社、S & P社のうち、高い格付を採用しています。(保証機関の格付を採用する場合があります。)

< 格付分布 >

現預金等	8.8%
P-1	91.2%
P-2	0.0%
Aaa	0.0%
Aa	0.0%
A	0.0%
Baa以下	0.0%
合計	100.0%

< 残存年限別構成比 >

現預金等	8.8%
30日以内	36.8%
90日以内	54.4%
180日以内	0.0%
1年以内	0.0%
1年超	0.0%
合計	100.0%

変動利付債は次回利払日までの日数で計算しています。

< 資産構成比 >

CD	0.0%
CP	91.2%
変動利付債	0.0%
普通債	0.0%
現預金等	8.8%
合計	100.0%

当レポート中の各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、それを用いて計算すると誤差が生じることがあります。

- 当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
- 特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
- 各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

特別勘定の運用レポート

【特別勘定名】

GWバランスファンド

【特別勘定が投資する投資信託】-投資信託の組合せ-

- ①利益還元成長株オープン(愛称:Jグロース)
- ②フィデリティ・日本小型株・ファンドVA2
- ③Gグロース ④ピムコ グローバル債券ファンド

【資産配分の助言に関する会社】 日興グローバルラップ株式会社

主要投資対象

国内株式・世界株式・世界債券等を主要投資対象とする投資信託。主に、利益還元成長株オープン(愛称:Jグロース)、フィデリティ・日本小型株・ファンドVA2、Gグロース、ピムコ グローバル債券ファンドの各投資信託証券を通じて投資が行われます。

*「投資信託証券」とは、証券投資信託の受益権または受益証券(マザーファンド受益証券を除きます。)及び証券投資法人の投資証券をいいます。

運用方針

各投資信託への投資を通じて、国内株式・世界株式・世界債券等へ分散投資を行い、積立金の長期的な成長を目指します。運用にあたっては、日興グローバルラップ株式会社より、投資信託の組み合わせ(資産配分)に関する助言を受けます。長期的観点から長期基本資産配分を策定し、これに中期的な市場見通しを加味した推奨資産配分比率に従って4つの各投資信託に分散投資を行うことにより、リスク分散に留意した運用を目指します。

組入投資信託の資産配分状況

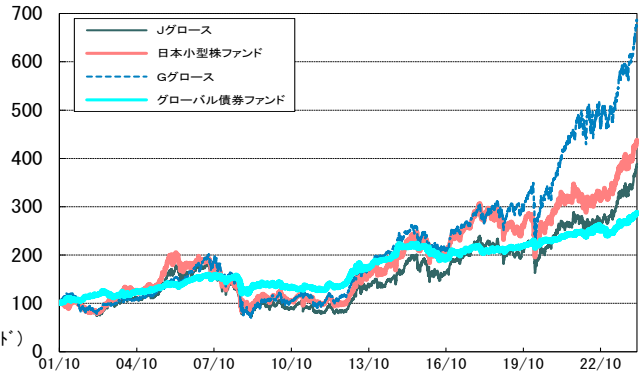
(データ:2024年2月末現在)

<組入投資信託の資産配分比率と収益率>

組入投資信託	資産配分比率	3か月	6か月	1年	GWバランス組入投資信託変更後(2003年7月1日)
Jグロース	23%	12.64%	14.27%	33.77%	449.05%
日本小型株	10%	5.61%	9.84%	22.80%	232.07%
Gグロース	34%	20.40%	24.00%	45.17%	533.21%
グローバル債券	33%	3.80%	5.50%	15.09%	130.19%

- ・上表の騰落率は、各組入投資信託の基準価額をもとに日興「ローバルラップ」が算出。
- ・上表はGW「バランスファンド」に組入れられる投資信託の「パフォーマンス」であり、特別勘定(日本株「ロスファンド」、日本小型株ファンド、「グローバル」ロスファンド、「グローバル」債券ファンド)の「パフォーマンス」ではありません。
- ・組入投資信託は今後、追加・変更となる場合があります。
- ・資産配分比率は中期的な市場見通しにより変更される場合があります。上記の資産配分比率は2020年12月10日に変更されています。
- ・右側グラフは、各組入投資信託のベンチマークについて、GW「バランス」の設定日(2001年10月1日)を100として指数化(円ベース)。
- ・右側グラフは、GW「バランス」に組み入れられる投資信託のベンチマークの「パフォーマンス」であり、特別勘定の「パフォーマンス」ではありません。

<ベンチマークのパフォーマンス指数化グラフ>



<組入投資信託のベンチマーク>

- Jグロース:東証株価指数(配当込み)
- 日本小型株ファンド:RUSSELL/NOMURA Mid-Small Capインデックス※
- Gグロース:MSCI-WORLDインデックス(税引後配当込み、円ヘッジなし・円ベース)*
- *2024年1月26日に、Gグロースのベンチマークを「MSCI-WORLDインデックス(円ベース)」から「MSCI-WORLDインデックス(税引後配当込み、円ヘッジなし・円ベース)」に変更しました。
- グローバル債券ファンド:ブルームバーグ・グローバル総合(日本円除くインデックス(円建て、ヘッジなし)※

※RUSSELL/NOMURA Mid-Small Capインデックスの知的財産権とその他一切の権利は野村フィデューシャリーリサーチ&コンサルティング株式会社(以下「NFRIC」)およびFrank Russell Companyに帰属します。また両社は、当インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当インデックスを用いて運用される当ファンドの運用成果等に関し一切責任を負いません。
※「Bloomberg」および「ブルームバーグ・グローバル総合(日本円除くインデックス(円建て、ヘッジなし))」は、Bloomberg Finance LP.および、同インデックスの管理者であるBloomberg Index Services Limited(以下「BISL」)をはじめとする関連会社(以下、総称して「ブルームバーグ」)のサービスマークであり、日興グローバルラップ株式会社による特定の目的での使用のために使用許諾されています。ブルームバーグは日興グローバルラップ株式会社とは提携しておらず、また、当資料を承認、支持、レビュー、推奨するものではありません。ブルームバーグは、当資料に関連するいかなるデータもしくは情報の適時性、正確性、または完全性についても保証しません。

<資産配分に関するコメント>

(出所)日興グローバルラップ株式会社

世界株式市場は上昇しました。日本市場は、月の下旬以降、米国ハイテク株高や円安傾向が継続したことなどを背景に上昇しました。下旬にかけても、日経平均が最高値を更新するなど上昇を継続しました。米国市場では、月の下旬は、大企業の好決算もあり上昇しました。中旬には、米国の消費者物価指数(CPI)が市場予想を上ぶれたことから下落する局面もありましたが、下旬には、半導体企業の好決算もあり上昇しました。欧州市場は、月の下旬は、グローバルに強弱入り混じる経済指標を背景に横ばいで推移しましたが、中旬以降は、欧州中央銀行(ECB)高官が早期利下げ観測は牽制したものの利下げ自体には肯定的であったことや、米国半導体企業の好決算を受けて上昇しました。

海外債券市場は下落しました。米早期利下げ織り込みは正の流れが続くなか、1月の消費者物価指数が前月比で上昇ペースが加速し、米10年国債利回りの上昇基調が強まりました。

為替市場では、前月末に1ドル=146円台にあった円の対ドル相場は、米国の強い経済指標を受けて利下げ観測が後退し、米長期金利が上昇したことに加え、日銀が金融緩和を継続するとの考えを示したことから、ドル買い・円売りが優勢となり、149円台で月末を迎えました。前月末に1ユーロ=158円台にあった円の対ユーロ相場については、ECBによる早期利下げ観測が後退したことに加え、日本の国内総生産(GDP)が市場予想に反してマイナス成長だったことなどから、日欧金利差を意識したユーロ買い・円売りが広がり、161円台で月末を迎えました。

今後を展望すると、世界株式市場では、米欧の利下げ開始時期を巡る思惑を背景に株価変動が大きくなる可能性はありますが、日米の企業業績見通しは良好で、これまでの上昇速度から調整懸念や割高感はありません。世界債券市場については、米欧では先行き利下げ転換が見込まれることから長期金利は緩やかに低下して債券価格は底堅いとみられますが、日本では金融政策正常化が近づき、連続利上げの可能性は低いものの買い材料は少ないと予想されます。為替市場に関しては、米欧の利下げ転換と日銀の政策正常化が予想され、内外金利差は先行き縮小見込みではありますが、日銀は連続利上げに消極的姿勢とみられ、当面は円高方向への調整も安値圏に留まることが見込まれます。

当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

オリックス生命からのお知らせ

ハートフォード生命保険株式会社は、2015年7月1日にオリックス生命保険株式会社と合併し、

現在はオリックス生命保険株式会社として引き続きお客さまのご契約をお守りしています。

オリックス生命保険株式会社は、The Hartford Financial Services Group, Inc.

またはその関係法人の関連会社ではありません。